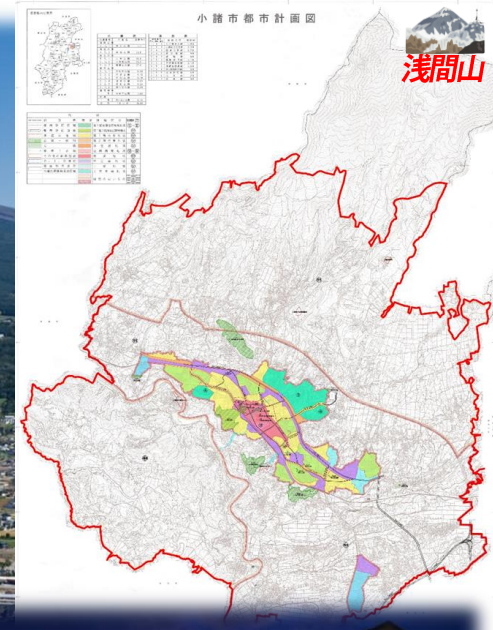




浅間山
2,568m

対象エリア
約680m

小諸駅
約660m



都市機能の集約化によるエネルギーの面的利用の取組み

ー長野県小諸市における官民一体プロジェクトー

小諸市総務部財政課 マネジメント推進係長 吉澤 一 男

①小諸市の紹介

長野県東部に位置（東京からの直線距離≒150km）

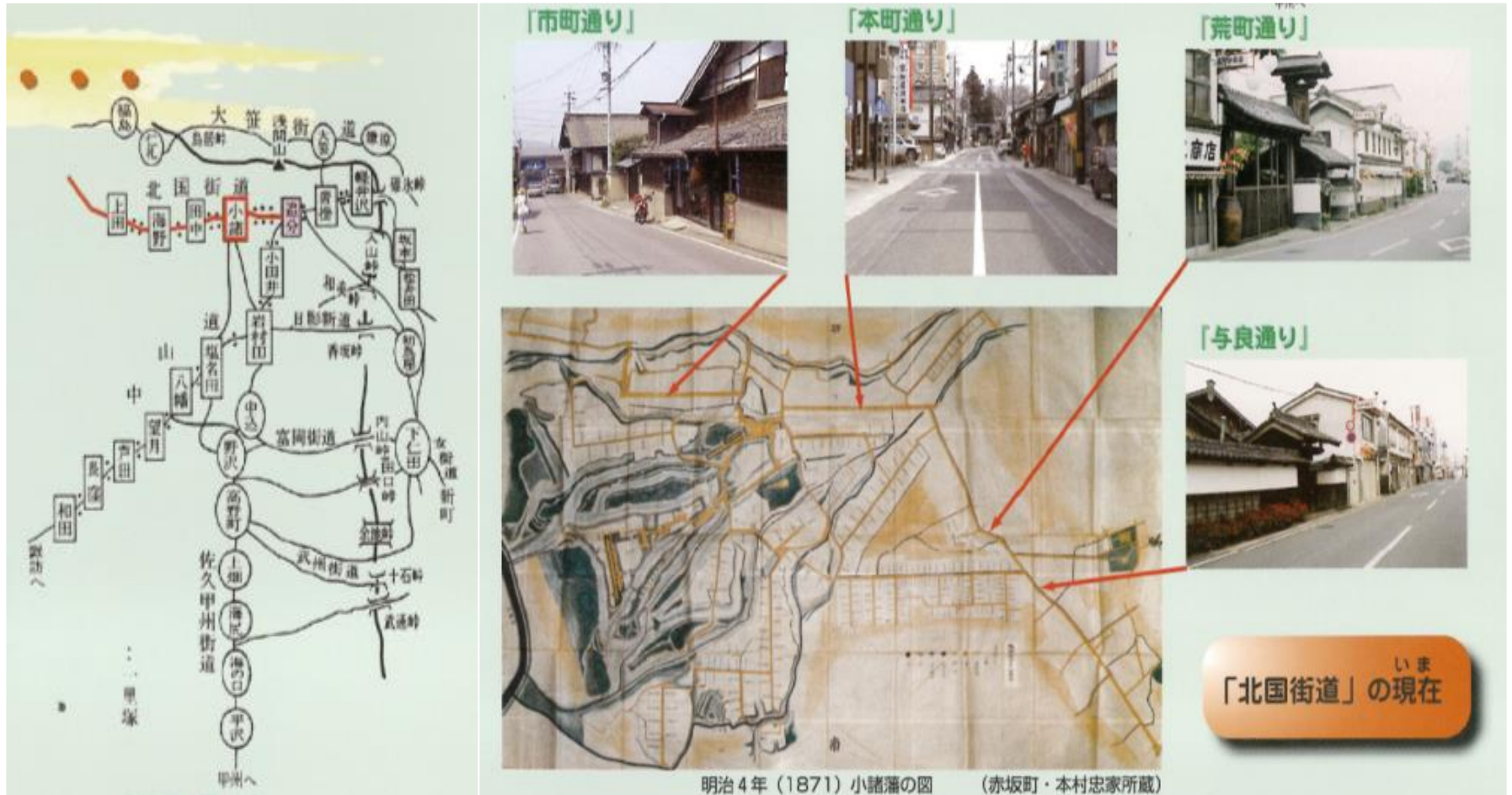
人口 41,754人（R4.1.1現在）

面積 9,855ha（都市計画区域 7,899ha／用途地域 682ha）

- ・北東に浅間山が聳え南西に千曲川が流れる「坂のまち」
- ・標高が600m以上となる高原地域
- ・夏季は湿度が低くさわやかだが冬季の寒さは厳しい
- ・年間を通じて降水量が少なく国内でも屈指の晴天率を誇る



中心市街地の成立



現在の中心市街地は、15～16世紀の小諸城（現在の懐古園）築城以降、北国街道・中仙道・甲州街道の結節点という良好な立地条件から、城下町・宿場町として商業を中心に繁栄した。明治以降も明治21年の信越本線開通により、小諸駅が「特急あさま」の停車する長野県東部の拠点駅となり発展してきた。

歴史的な転機



平成9年の長野新幹線（現：北陸新幹線）開通に伴って、小諸駅が新幹線ルートから外れるとともに、信越本線は並行在来線として第3セクター「しなの鉄道」に移管された。

現在の中心市街地

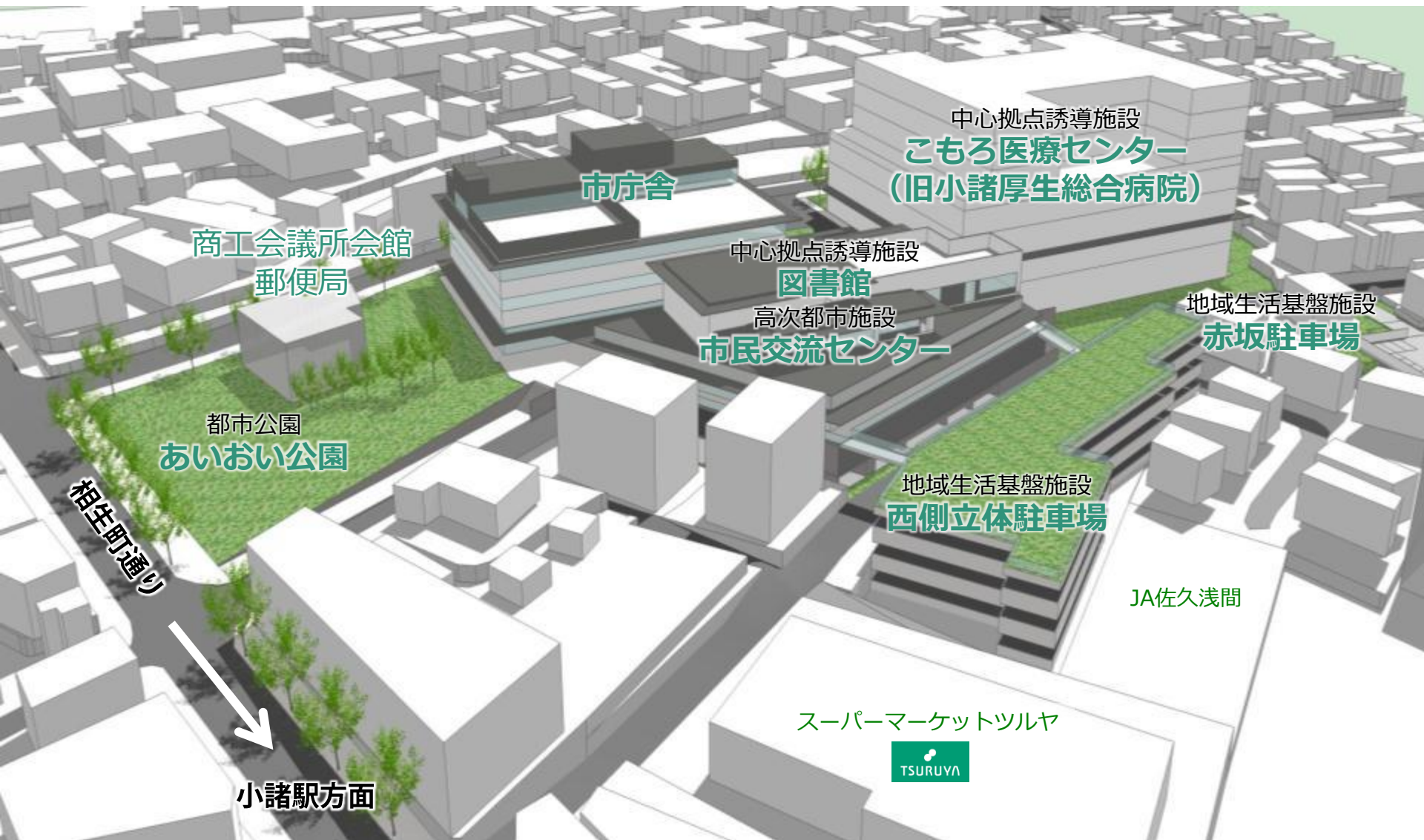


小諸駅が新幹線ルートから外れたことで、小諸駅の乗降客数が激減し、地元経済・観光は大打撃を受け、まちは激しく変容している。現在に至るまで、新たなまちづくりの方向性を模索している状況が続く。

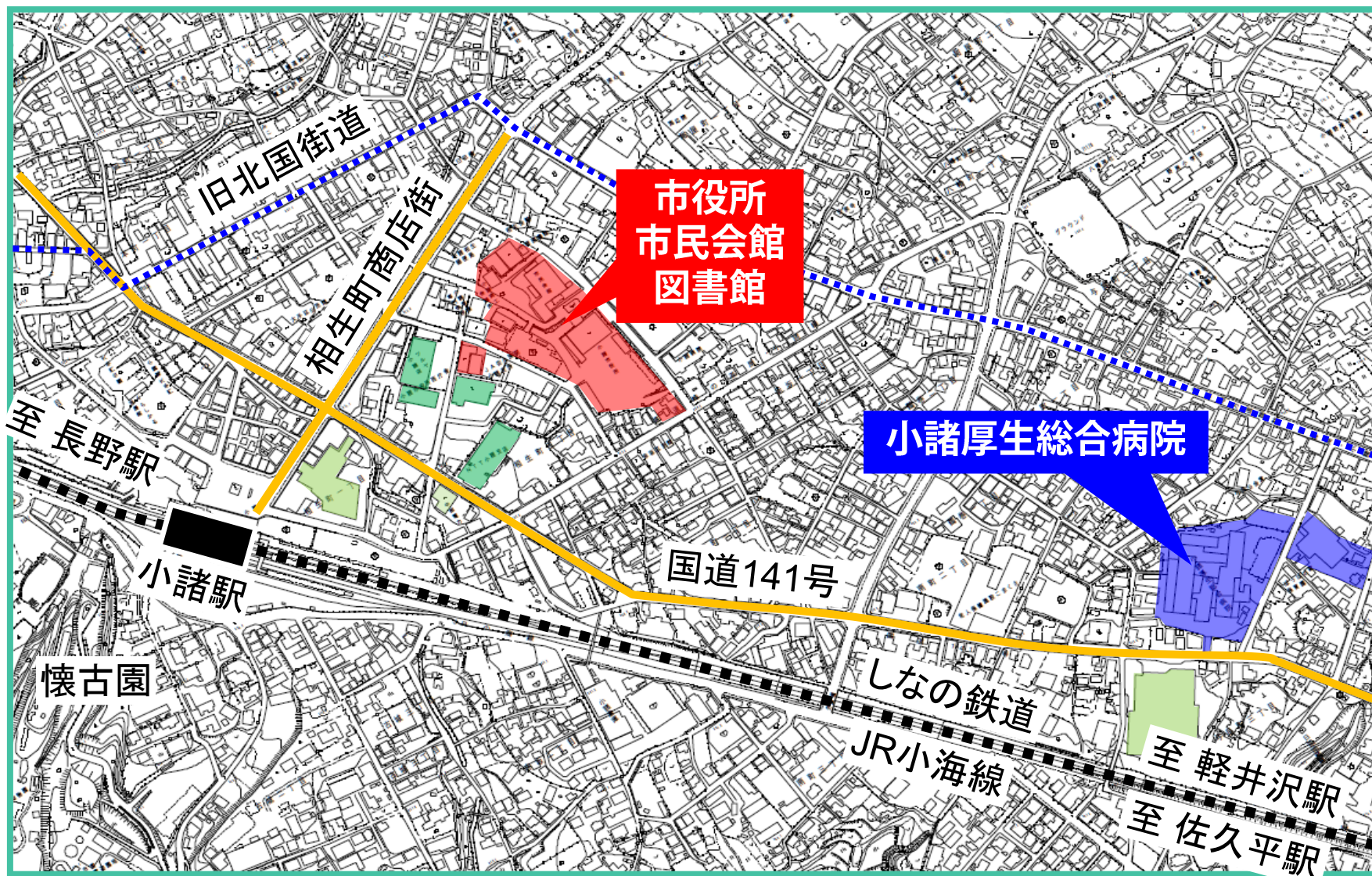
②プロジェクトの概要と経緯

中心市街地への集約化による施設の再構築事業（平成21～29年頃）

旧市庁舎敷地一帯への市庁舎・複合施設・病院（民間）の併設を中心としたプロジェクト



事業化前の施設配置図（平成20年頃）



事業化検討の契機（平成21年頃）



旧小諸市庁舎
（昭和39年建築）

老朽化が進み耐震対策も未実施

市庁舎整備が喫緊の課題に



旧小諸厚生総合病院
（昭和40年代以降順次増改築）

老朽化と医師不足から郊外への再構築を検討

市唯一の総合病院が消失する危機感

市庁舎敷地一帯での再構築までの流れ

小諸市は、喫緊の課題に対する解決策として、平成21年3月に市役所庁舎の整備と小諸厚生総合病院の再構築を含めた「**街再生計画案**」を発表

【計画案の概要】

- 市役所と小諸厚生総合病院の敷地交換移転
- 病院の再構築に伴う費用として市から厚生連へ30億円を支援



【市民からの反応】

「計画を進めてほしい」との声も多く寄せられる一方で…

「市の財政は大丈夫か」「なぜ30億円の支援が必要なのか」

「小諸教育発祥の地で特別な場所である市役所敷地を提供してよいのか」

といった反対の声も

特に、市役所敷地周辺には病院や診療所があり、医師会の一部が強く反対

市庁舎敷地一帯での再構築までの流れ

平成21年から平成24年にかけて市を大きく二分する重大な政策課題に

【市民アンケートの結果（平成21年12月実施）】

『救急医療体制の維持』約90%賛成／『市役所敷地の厚生病院への提供』約55%賛成

【市役所庁舎の整備手法案】

- ①H21年3月：病院敷地へ交換移転（小諸市当初計画案）
- ②H23年1月：別の市所有地へ新築整備（市庁舎整備基本構想策定委員会答申基本構想）
→新築整備予定地が浅間山融雪型火山泥流マップ（ハザードマップ）で警戒が必要な範囲に指定
- ③H23年8月：市役所敷地で病院と市庁舎を併設
H23年10月：小諸市、JA長野厚生連、小諸厚生総合病院の三者「病院再構築に関する覚書」調印
H24年 3月：市庁舎等建設基本設計業務着手
- ④H24年4月：市長選で併設計画反対派の市長が当選→事業を一旦ストップ



市庁舎の建設予定地など計画は二転三転したが…

⑤平成24年10月：市長の方針転換の決断により

コンパクトシティの理念のもと市庁舎敷地一帯で市庁舎・図書館・病院を併設

という計画で最終的に確定

低炭素まちづくり計画（第1期：平成25年3月作成）に基づく再整備へ

施策1：集約都市開発事業

『市役所周辺敷地を整備し、都市機能の集約化を進める。』

- ・小諸厚生総合病院の再構築
- ・市立図書館の新築
- ・コミュニティホールの新築
- ・都市再生整備事業等による集約地域の機能向上
- ・集約都市開発事業計画の認定制度の利用

低炭素まちづくり計画（第1期）区域図

施策2：集約駐車場施設の整備

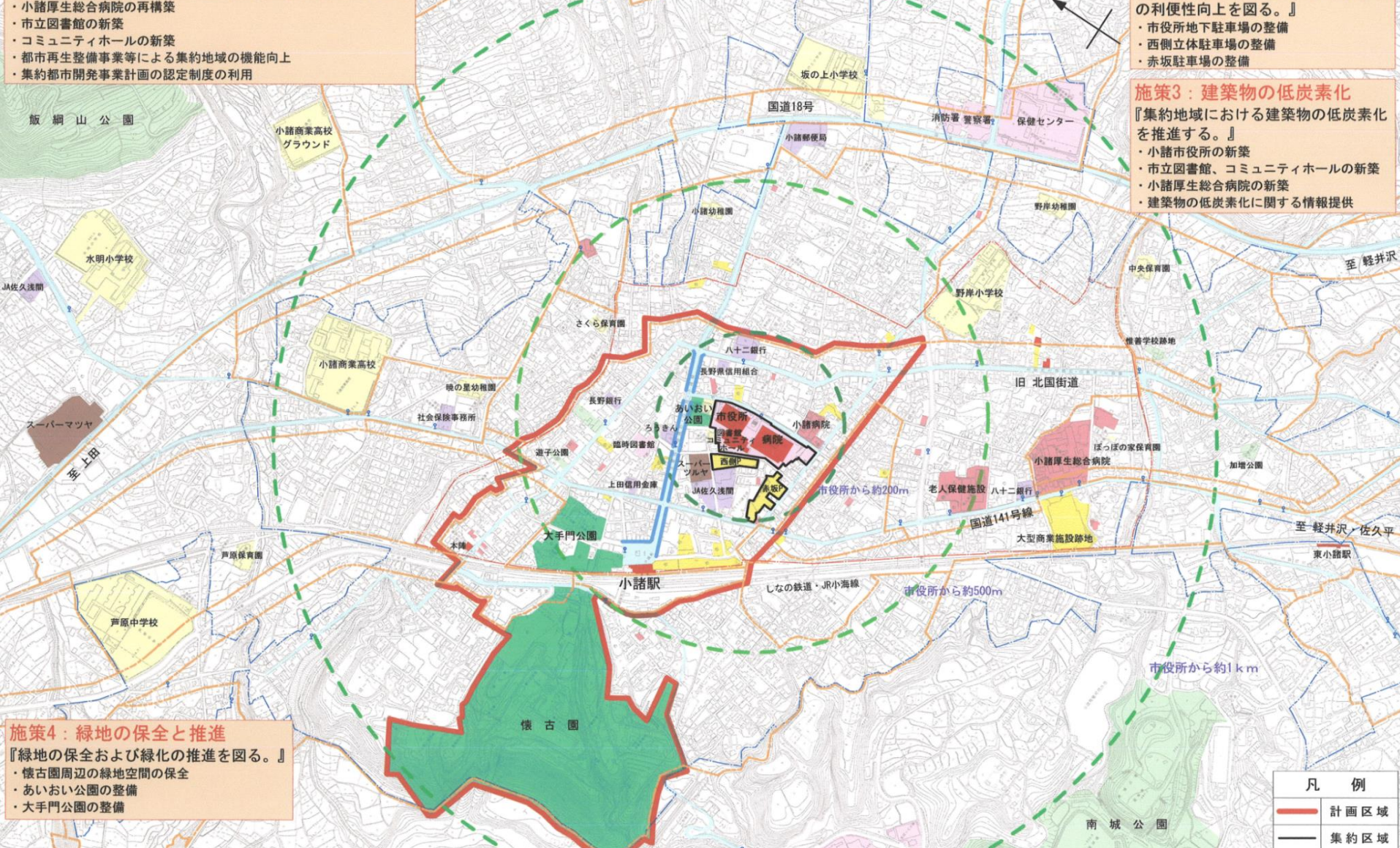
『集約駐車場施設を整備し、集約地域の
の利便性向上を図る。』

- ・市役所地下駐車場の整備
- ・西側立体駐車場の整備
- ・赤坂駐車場の整備

施策3：建築物の低炭素化

『集約地域における建築物の低炭素化を推進する。』

- ・小諸市役所の新築
- ・市立図書館、コミュニティホールの新築
- ・小諸厚生総合病院の新築
- ・建築物の低炭素化に関する情報提供



施策4：緑地の保全と推進

『緑地の保全および緑化の推進を図る。』

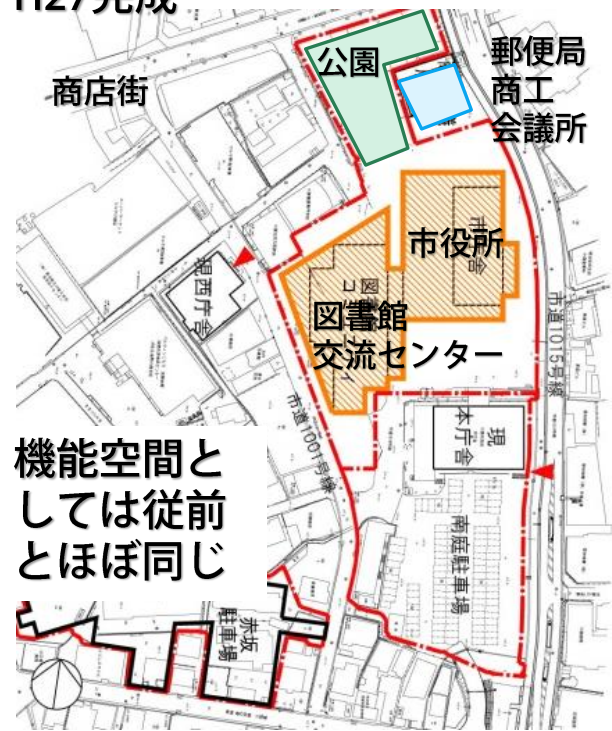
- ・懐古園周辺の緑地空間の保全
- ・あいおい公園の整備
- ・大手門公園の整備

施設整備の工程

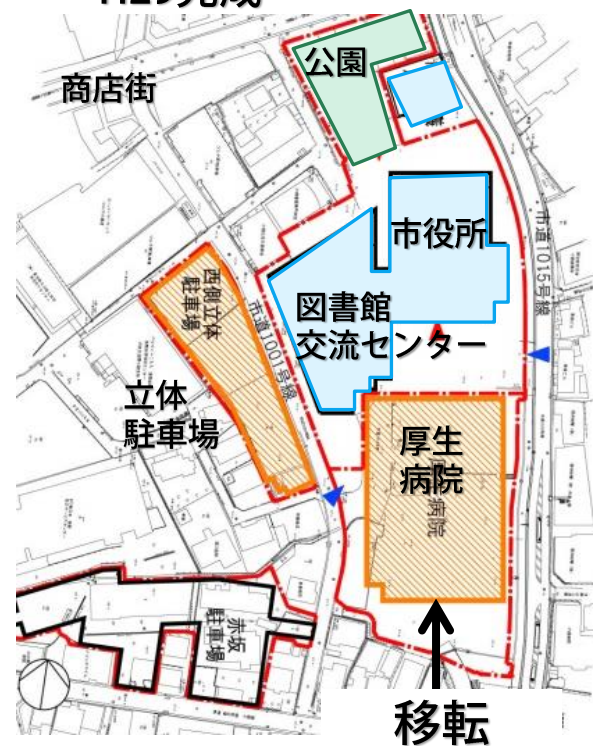
再編・集約前 H24



市役所・図書館・交流センター
H27完成



病院・立体駐車場
H29完成



③ 建築概要とエネルギー関連システム

建築概要

浅間南麓こもろ医療センター

延床面積：21,102㎡（246床）

階数：地上6階、地下1階

竣工：平成29（2017）年9月

小諸市庁舎・こもろプラザ

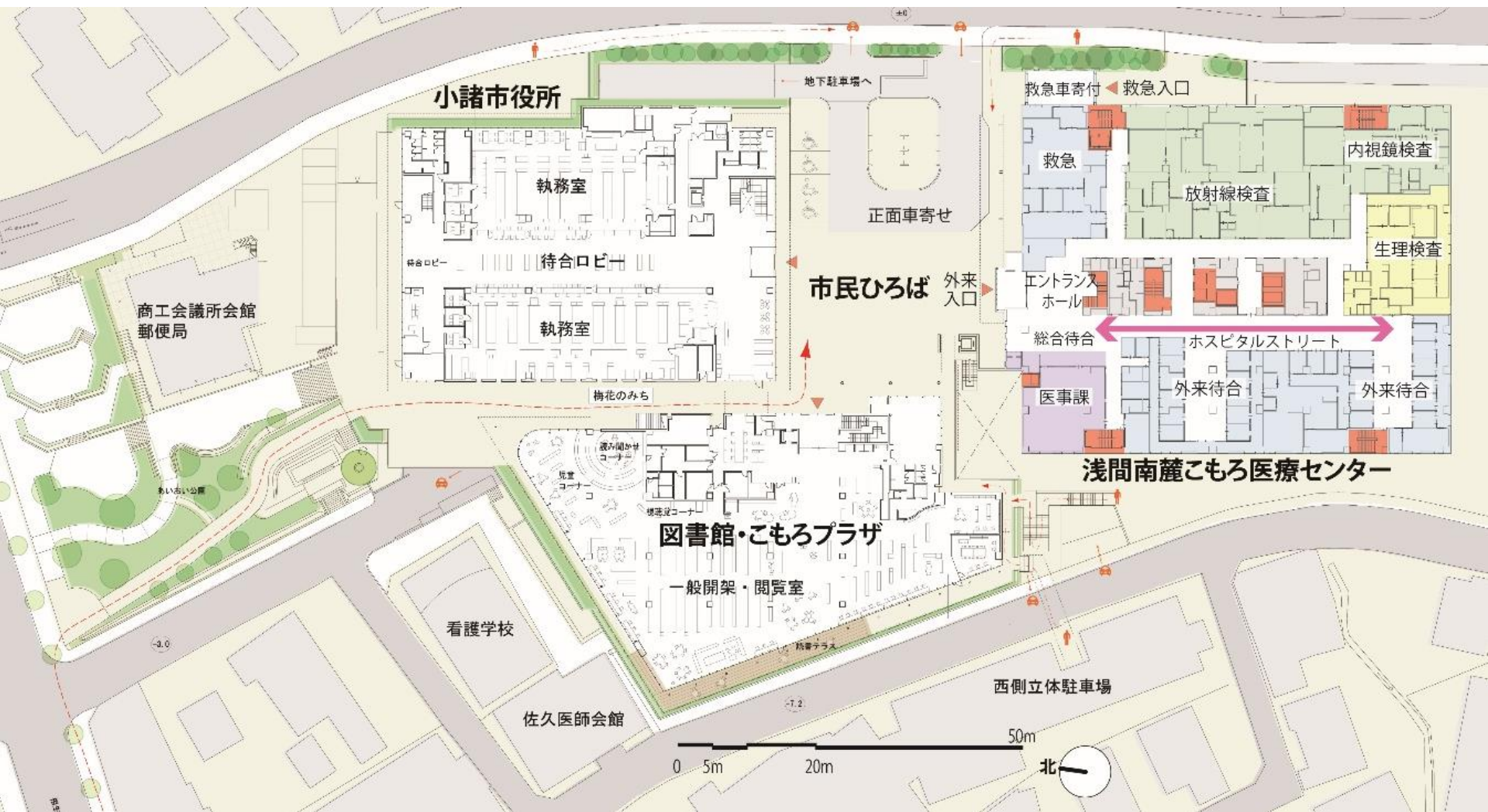
延床面積：19,945㎡

階数：地上4階、地下2階

竣工：平成27（2015）年7月

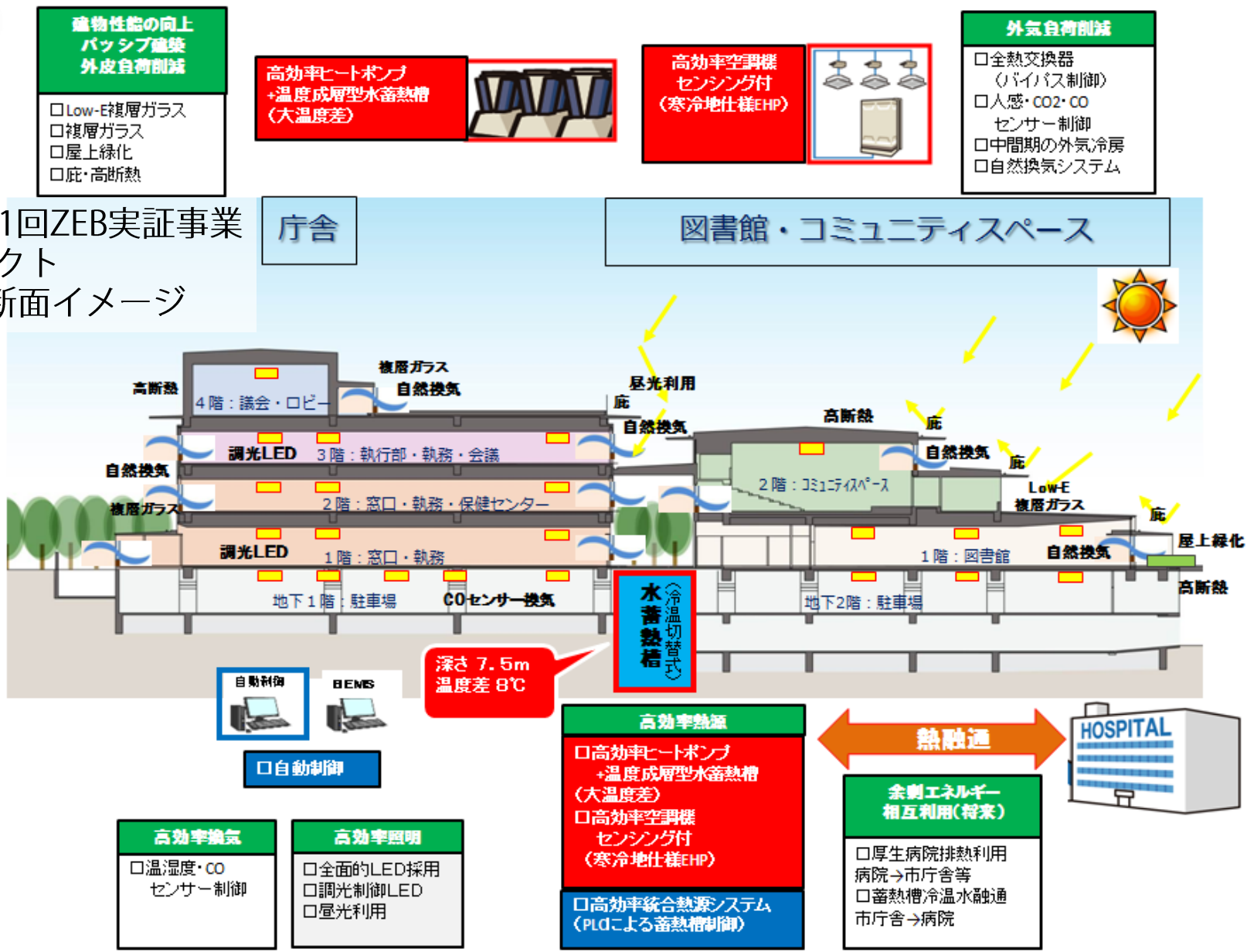


建築概要（1階平面図）



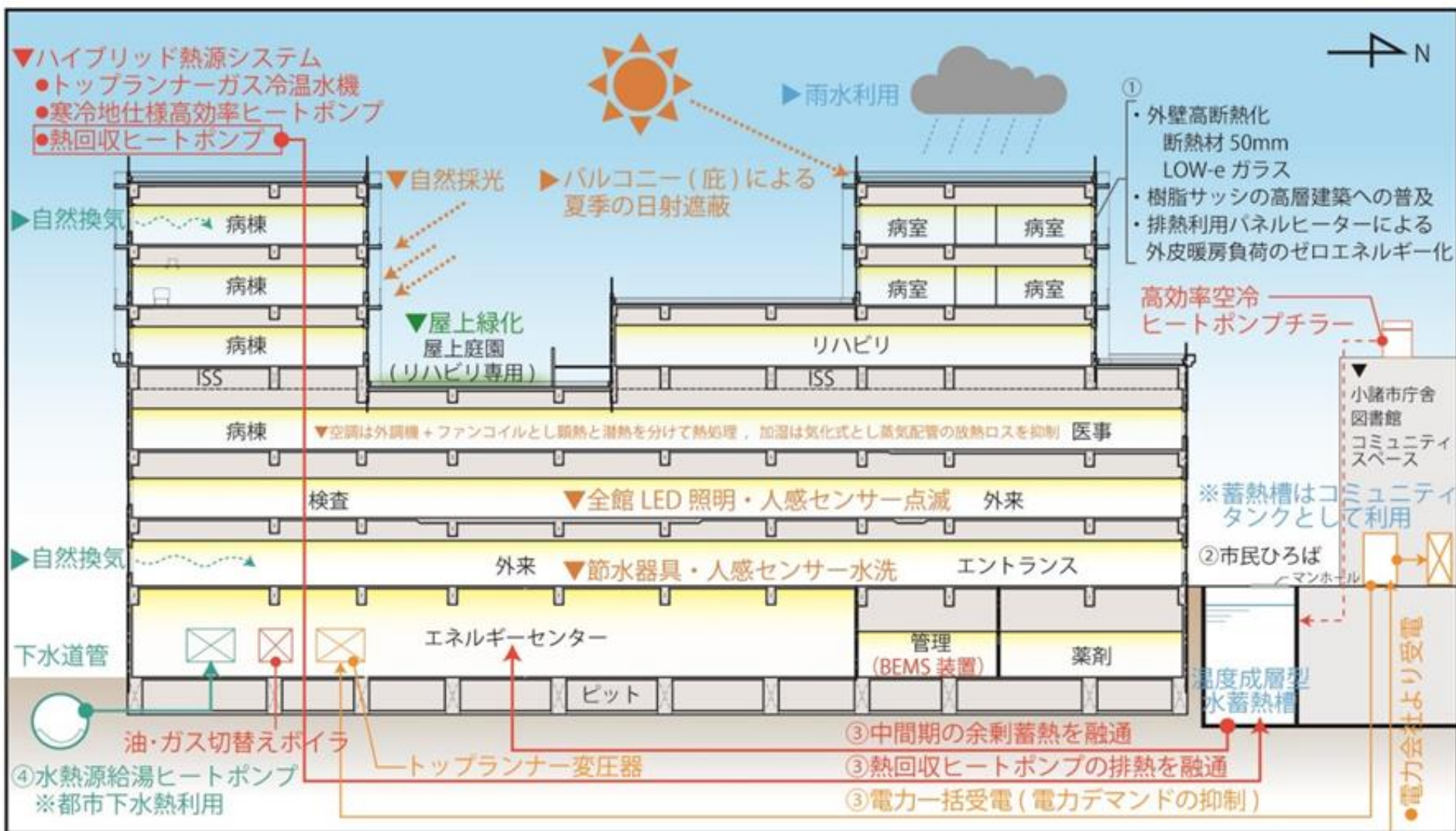
建物概要① 市庁舎等

平成26年度第1回ZEB実証事業
採択プロジェクト
ZEBアイテム断面イメージ



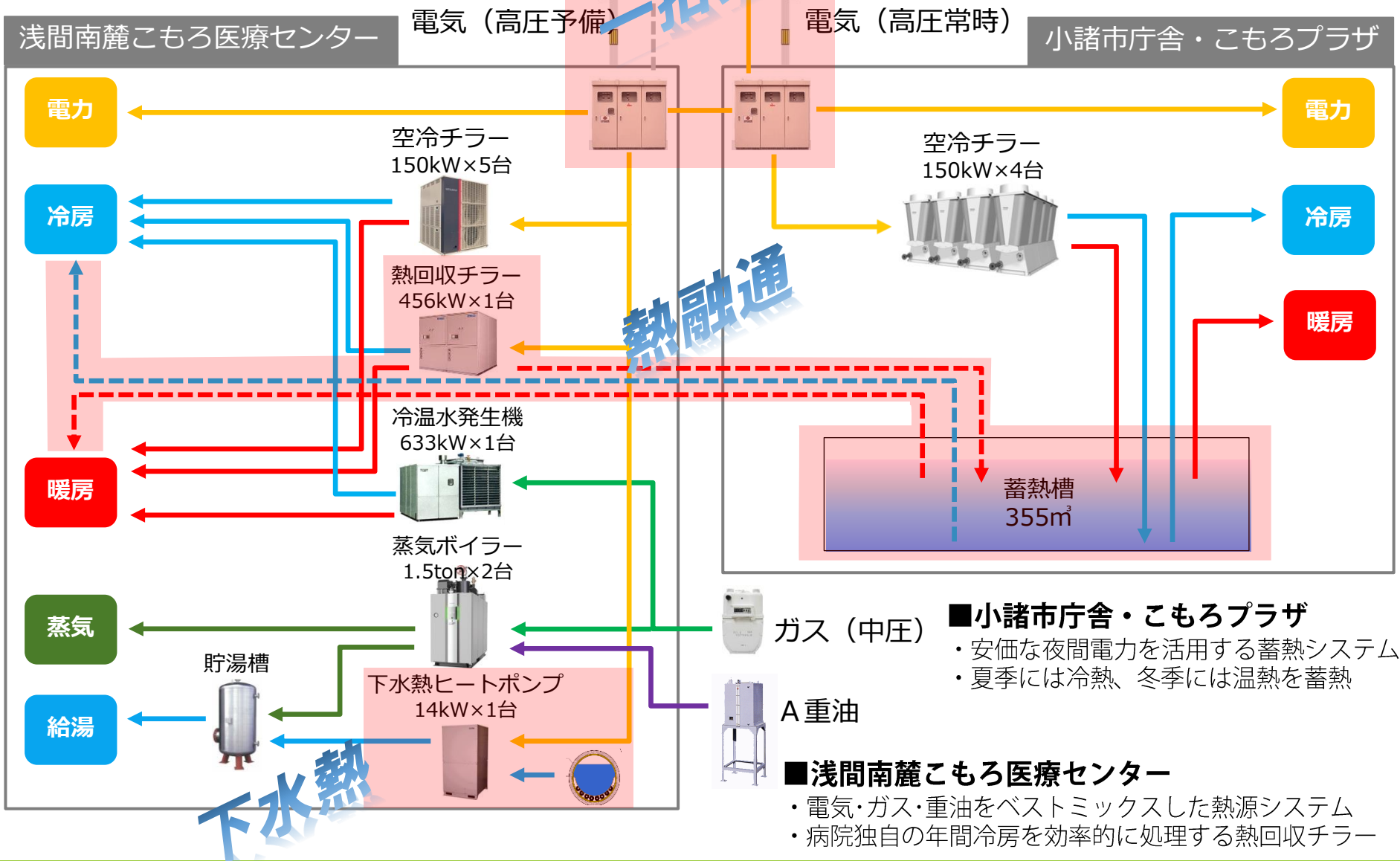
建物概要② 病院

平成26年度第2回 住宅・建築物省CO₂先導事業採択プロジェクト
省CO₂アイテム断面イメージ



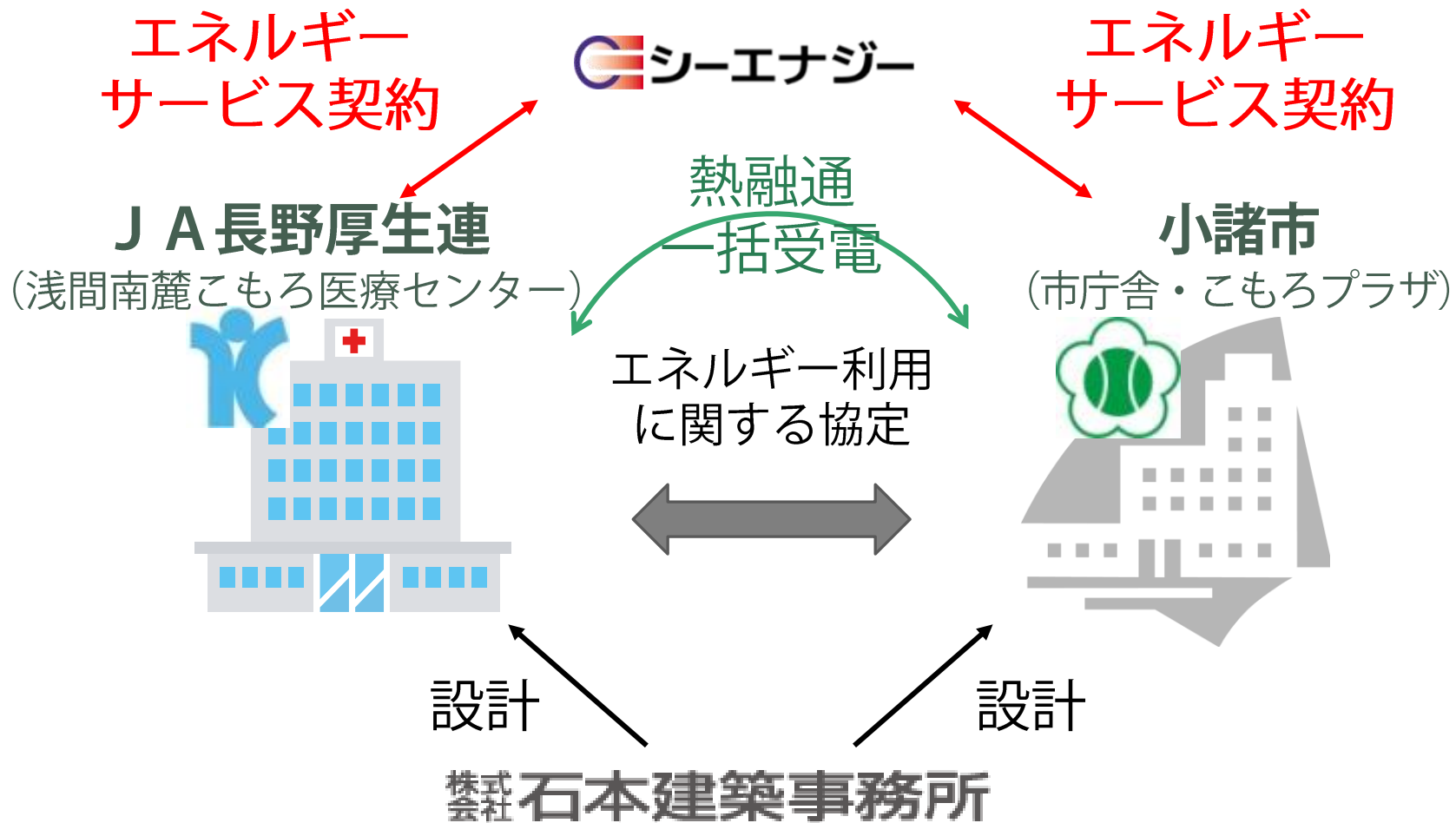
③ 建築概要とエネルギー関連システム

システムフロー図

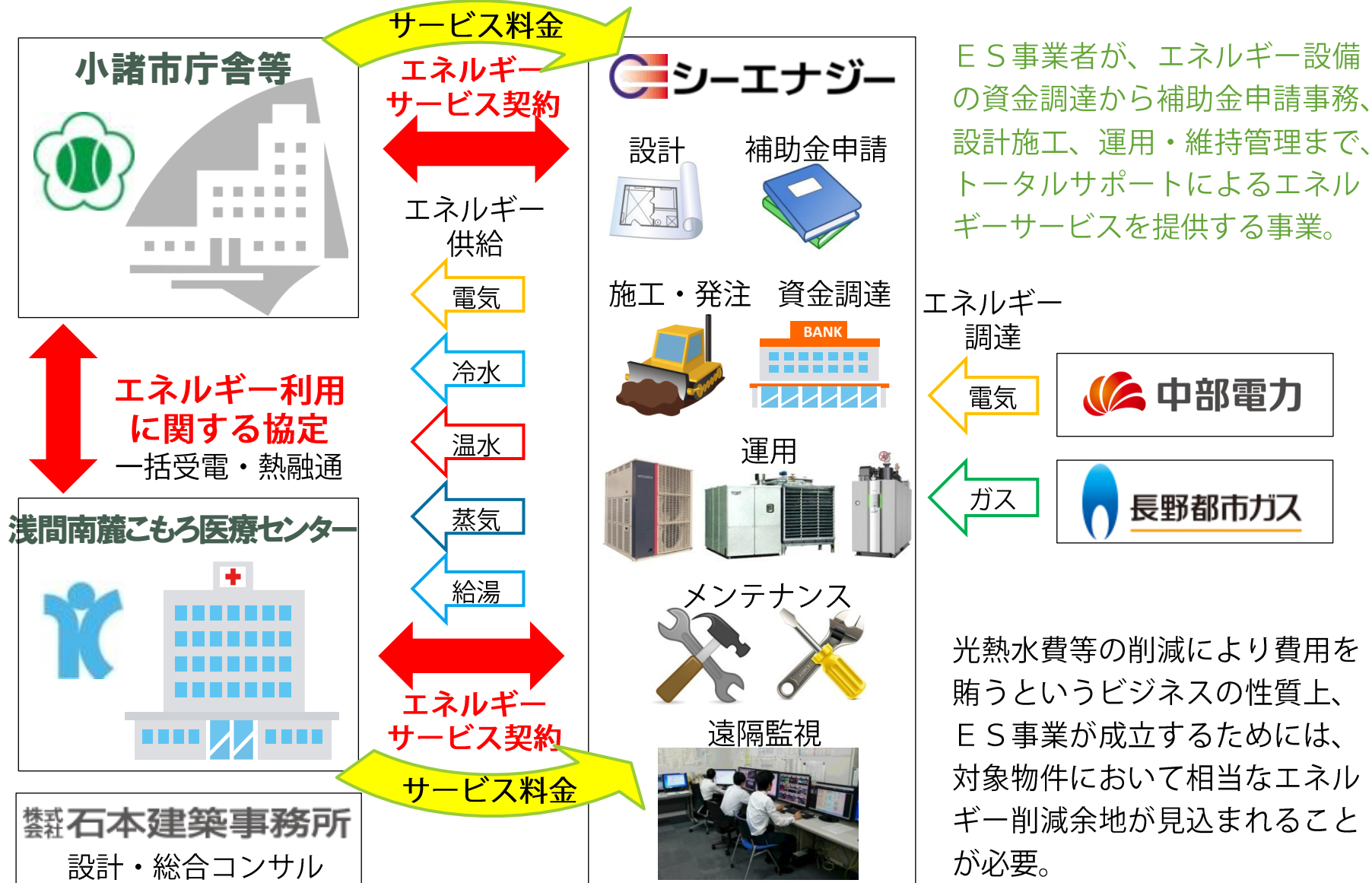


④実施体制とエネルギーサービス事業

面的エネルギー利用の実施体制



エネルギーサービス（E S）事業とは？



ES事業導入のメリット

①初期建設費用の軽減

ES事業者がエネルギー供給設備を建設・所有するため、イニシャルコストの抑制が可能となり、その資金を本業である他施設（医療機器購入等）へ集中することができる。

②経費の平準化

契約期間中のサービス料金（維持管理費含）は一定であり、突発的な追加費用の発生はなく、経営への影響を安定化できる。

③責任箇所・窓口の一本化

ES事業者がエネルギー供給設備の運用、電力・ガスの調達等を実施するため、責任箇所の明確化と窓口の一本化を図ることが可能となる。また、本件のような**共同事業においては、一体的な省エネルギー・省CO₂の推進が容易なものとなる。**

④ランニングコストの削減・保守メンテナンスの省力化

エネルギーの専門業者が省エネルギー及び予防保全等の面から最適かつ計画的な設備運用を行うため、光熱水費や保守費といったランニングコストのミニマム化を図ることができる。また、エネルギー供給設備の維持管理はES事業者が実施するため、人件費の抑制も可能。

⑤各種法対応（省エネ法、自治体法など）

エネルギーの専門業者が省エネ法、自治体法などの各種届出や改正対応等を顧客に代わってES事業者が実施する。

E S 事業導入までの経過

●【平成25年3月】

第1期低炭素まちづくり計画を策定

●【平成26年1月】

小諸市とJ A長野厚生連でエネルギー利用に関する協定を締結

●【平成26年2月】

小諸市庁舎等建設工事着工

●【平成26年3月】

合同公募型プロポーザルによりE S事業者をシーエナジーに決定（応募4社）

●【平成26年5月】

小諸市・J A長野厚生連・シーエナジーの三者でエネルギー供給サービス事業に関する覚書を締結→E S事業開始（E S設備着工）

●【平成27年7月】

小諸市庁舎等竣工→エネルギー供給サービス開始（遠隔管理）

●【平成29年9月】

浅間南麓こもろ医療センター竣工→E S事業者の常駐開始

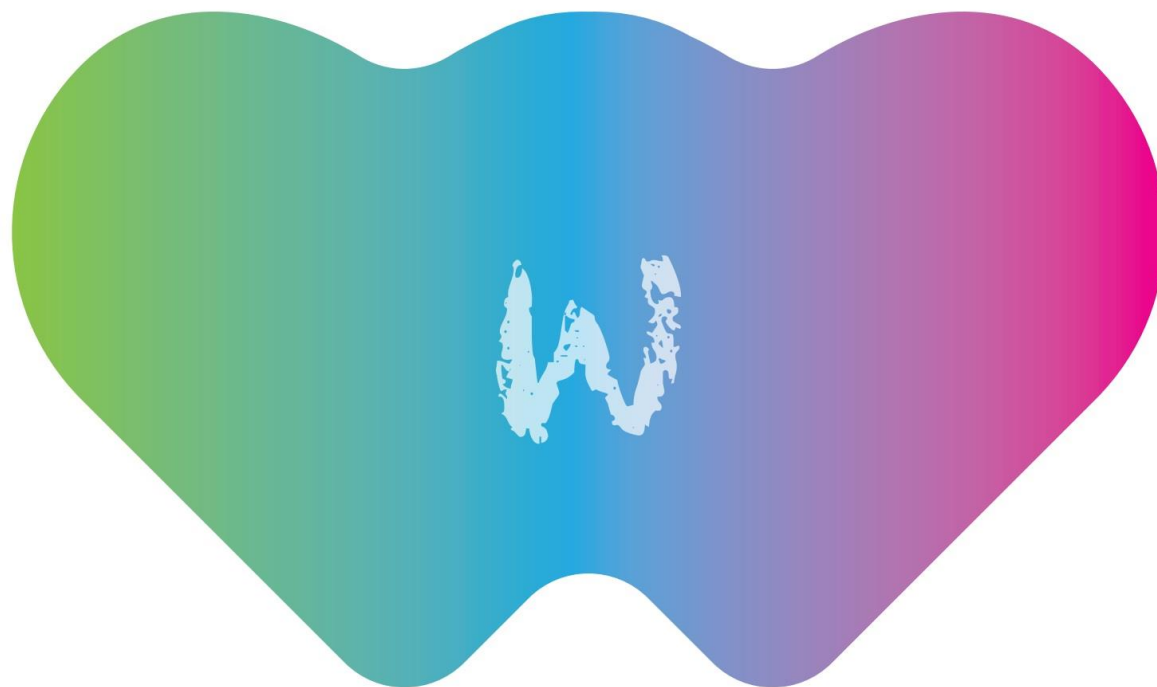
今後について・・・



カーボンニュートラル の取組みへの発展

設計者・E S 事業者からの技術支援を得ながら、現在のE S 事業の枠組みを活用して、周辺の公共施設、さらには民間施設等も含めたエネルギーの面的利用の拡充による「脱炭素化」の取組みを検討中

ご清聴ありがとうございました



WELLNESS

KOMORO city

ウェルネスシティ 信州小諸

— 自分らしく居られるまち、自分に還れるまち —